



HPS Japan
Hospital Play Specialist

News Letter

ニュースレター

<http://bambi.u-shizuoka-ken.ac.jp>



インタビュー

この人に聞く

静岡県立大学短期大学部 学長
保健学博士

西垣 克氏

Q 日本の病児に対する療養環境はどのように思われますか？

医学の歴史では、疾患単位によって患者を診てきましたが、子どもは大人の小型化として理解していたに過ぎず、ライフステージを反映した疾患像をとらえてきませんでした。しかし、ひとつの生命体として、独自の存在に対応した子ども専門病院が生まれ、医療提供として先天異常を含め小児性糖尿病や小児がんなどの対応はできてきています。慢性型代謝異常疾患の長期入院児に対し、病院に併設された小学校や中学校の教育はなされるようになりました。ですが、身体的・知的な発達の視点で、疾病によって成長発達の断絶が起きないようにする工夫は十分ではなく、遊びを含めたトータルな調整機能やそれを担う専門職種としての確立がまだできていないのが現状です。

Q 本学が採択された再チャレンジ・プロジェクトの意義は？

病児への療養環境が十分でない中、病児へのアプローチに離退職した保育士や看護師を対象としたことは大きな意味を持ちます。それらの専門性をベースラインに、子どもの発達特性や個別性の視点を上乘せし、病棟のアクティビティの量や質を高めることに大きな期待を寄せています。着目すべきは、イギリスやアメリカの医療現場で、HPSや



CLS の活動が医療行為外のサービスとして認知されてきたことです。なぜ、このような職種が欧米で求められてきたのか、歴史的・社会的な観点から研究する必要があります。

このプロジェクトでは、単なるイギリスの HPS 養成教育を真似するのではなく、コメディカル・スタッフの一員として、日本型プレイスペシャリストの必要性を証明していかなければなりません。この養成教育ですべて解決するわけではなく、子どもという患者特性と医療との隙間を埋めるために、「遊び」の専門性の意義や役割を明確にする第一歩として考えています。そして、このプロジェクトは「学び直し」という対象者の潜在的に眠っている能力の再開発という意義をよく考える必要があります。大学が履修証明し、それが社会的に通用するために何をすべきで、何ができるのか、その取り組みや実績が直接問われてくることになります。

Q 保健・医療と福祉の連携が小児医療の現場で難しいのですが？

まず、各分野に共通するプラットフォームを固めていく必要があります。バイオメディカルや病態像の知識など、共通言語を持たずに連携はできません。「困っている人がいるから何とかしてあげたい」と思う気持ちは大切ですが、制度や機関の中で、理念だけで空回りしてしまっては医療裏面へつづく



現場では会話が成り立たちません。エビデンスを基盤とした職業人としての共通プラットフォームを持っていないところに問題があります。そして、どの分野においても共通認識として、大人は子どもに決して自分の価値を押し付けるのではなく、常に未知なるもの、固有に成長発達する存在として認めなければなりません。

Q 今後の方向性やこのプロジェクトに期待することを聞かせください。

保健・医療と福祉の連携や統合は必要性ですが、その専門性が明確でないのが問題です。サッカーであれば、パスワークが成り立つのは、各ポジションの役割があり、守備範囲が明確であるからです。連携や統合の「思い」だけがあっても、お互いのジョブ・ディスクリプションが共有化できていなければ、パスはつながりません。そして、それぞれの領域でお互いが認め合えるためには、共通する目標やミッションの合意が不可欠です。我々は、疾患を抱える子どもたちに最適な療養環境を提供し、構築していくためには何をしなければならないのかという共通課題を持っています。医療制度の疲弊や患者ニーズへの対応など課題の多い医療現場で、離退職した保育職と看護職がその専門性をベースに、もう一度新しい目線で共に学びあえるこのプロジェクトの意義は非常に大きいといえます。共通ミッションや共通戦略とは何かを考え、お互いが尊敬し合える個のアイデンティティを補強する意味でも、真のチームワークの確立について検証していかなければならないと思います。

医療に対する考え方も時代によって大きく変化してきま



した。「行為」としての医療、「業」としての医療、そして「制度」としての現代の医療システムが構築されています。しかし、これからの医療システムは、医療制度だけでなく、

市民活動、NPO、ボランティアも含んだトータルなケアシステムです。また、専門職として成り立つには独自の職能を有し、職域が存在することです。HPS の養成教育プロジェクトでは、これらの点をきちんと理解しなければなりません。勿論、多専門職種ของทีมアプローチは連携や協働で成り立ちますが、まず必要なのは HPS の意義や役割を自らがきちんと理解し、その価値を連携する相手に認知してもらう努力が必要です。医療制度の中では、HPS が国家資格のような身分法に規定されるとは現代段階では考えられませんが、病院に「PLAY」の技術を用いて活躍するという専門性が決して低いというわけではありません。大学教育において看護や保育を学んだ者が大学院レベルで HPS の養成教育を受けるという方向性も考えられます。「月見草」は草花の中では決して華やかなものではありませんが、日本一の霊峰富士にはその月見草が似合うのです。これからの小児医療システムに不可欠な専門職として存在価値を認められるよう本学プロジェクトには大きく期待しています。



メッセージ Welcome to the first Hospital Play Specialist training course in Japan



会長

ノーマ・ジュン・タイ 氏

英国ホスピタル・プレイ・スタッフ協会

You are now part of Japan's history in formally addressing the emotional wellbeing of sick children

2006年、静岡県立大学短期大学部で開催された「日本医療保育学会」に講演講師として招かれ、保健、医療、福祉の専門職を養成するこの大学が人的・設備的にHPS養成教育にふさわしい機関であることを確信しました。病児や家族の医療ケアの質を高める一歩としてこの大学でHPS ジャパンプロジェクトが始まることは、NAHPS 理事長としても、HPS 個人としても非常にうれしく思っています。英国同様、日本でもHPSの専門性がチーム医療で発揮されることを確信しており、このプロジェクトに参加・協力できることを心より楽しみにしています。



HPS Japan 実行委員会メンバーの紹介

本プロジェクトを支える実動部隊の面々です。

短期大学部長 川村邦彦

1年ほど前、病児の療養環境をTVで観る機会がありました。そこには、放射線治療で髪の毛が抜けてしまった子どもが紹介されていました。クリニックラウンの出現に、笑い、はしゃぎ、遊ぶ姿に私は目が点になりました。HPSも病院における子どもの笑顔をつくり出す職種であると思います。子どもの療養環境の改善を図り、子どもらしい発達の道筋を整えることです。個人的には、HPSでもCLSでも病棟保育士でもなんでもでも良いと思っています。大切なのは、病気や障害を持った子どもに遊びを提供し、その療養環境を改善することなのですから！

～すべての子どものために すべては子どものために～

社会福祉学科
松平千佳

私は4年前に始めてHPSに出会い、その役割に大きな魅力を感じました。最も魅力的に感じたことは、HPSの役割の明確さです。「私たちは、病院におけるPLAYのスペシャリストなのよ」との紹介どおり、彼女たちは徹底して子どもの目線で遊びを展開していました。入院は、子どもにとってまさに日常生活の断絶にほかなりません。そのつらい体験の中に、子どもにとっての日常を再び取り込む活動が「遊び」であり、遊びを通して子どもはノーマルな感覚を取り戻すのだとHPSは教えてくれました。HPSは、「遊びこそ最大の治療なんだ」と遊びを道具に、デストラクションやプレパレーションなどを行い、子どもにとっての治療をたやすくしてくれます。こんな素敵な職業が、もっともっと日本で知られること、そして小児医療のあり方が今より1歩でも進むための貢献ができればいいなと考えています。

社会福祉学科 江原勝幸

息子が2歳の頃に3度入院。最も長かったのは胸部にできた腫瘍の摘出で1週間でした。次男が生まれたばかりであったので、母親は長男にほとんどついてあげることができず、病院という特別の環境と手術という特殊なことに対して、家族として十分なケアができませんでした。夜間は私が長男のベッドに添い寝をし、手術前の麻酔の前についてあげることはできましたが、まだ幼かった息子にとって辛くて切ない入院期間であったはずで、長期入院している子どもや家族であればとても深刻な問題でしょう。

HPSの存在意義や可能性が非常に大きいことを短期でしたが息子の入院からも実感しています。このプロジェクトが単にHPSの養成教育ではなく、子どもをめぐる療養環境の改善に寄与する存在としてHPSが広く認められるよう実行委員のチームワークで支えていきたいと思えます。



社会福祉学科 立花明彦

広島出身ゆえに縁のある人から……。毛利元就が言った3本の矢の故事、1本の矢は簡単に折れても、三つが一つになれば強いものになる。本プロジェクトはHPSの養成、その啓蒙啓発、キャリア支援の三つからなります。この三つがそれぞれの目標を達成し、融合してこそ初めて本プロジェクトは成功をみ、社会に受け入れられるものと考えています。その中で私はキャリア支援で協力したいと思います。

歯科衛生学科 吉田直樹

子供にとって、「遊び」は、最も大切なもののひとつです。小児医療の場においても、子供が「遊び」から切り離されない環境が大切だと思います。より多くの人々に、その大切さを理解してもらえたら良いと思います。このプロジェクトが、病気の子供とその家族にとって、より望ましい状況を提供するために、役に立つと信じています。

HPSキャリア支援センター
中村仁美

遊びが子どもにもたらす大きな影響力を、児童カウンセラーとしての経験を通して見てきました。そんな遊びを専門としているHPSを養成しているこのプロジェクトにアシスタントとして、参加できることを光栄に思います。





公開セミナー案内

「Every Child Matters

～すべては子どものために、
すべての子どものために～

2007年度 HPS 公開セミナー & ワークショップが3月1日開催されました。

セミナー記念講演

「子どものところに寄り添うクリニックラウンの活動」

日本クリニックラウン協会
養成トレーナー 石井 裕子



シンポジウム

「遊びを通じた病児へのかかわりの現状と
今後の展開を考える」

コーディネーター：

あいち小児保健医療総合センター
センター長 長嶋 正實

シンポジスト：

National Association of Hospital Play Staff 会長
Norma Jun Tai

浜松医科大学病院 CLS 山田 絵莉子
日本医療保育学会理事 山本 和子

司会：

静岡県立大学短期大学部 松平 千佳



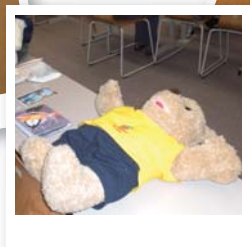
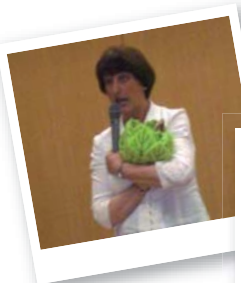
HPS ワークショップ

「Promoting Hospital Play in Japan」

National Association of Hospital Play Staff 会長

Stevenson College HPS コース責任者

Norma Jun Tai
Frances Barbour



インフォメーション

講座スケジュール

2008年 2月25日(月)～3月24日(月)
(実習 3月10日(月)～3月21日(金))

講座日程表

講座 (orange) セミナー (green)
実習 (blue) 課題研究 (pink)

	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
第1週目	2/25(月)				
	2/26(火)				
	2/27(水)				
	2/28(木)				
	2/29(金)				
	3/1(土)				
第2週目	3/3(月)				
	3/4(火)				
	3/5(水)				
	3/6(木)				
	3/7(金)				
	3/8(土)				
第3週目	3/10(月)				
	3/11(火)				
	3/12(水)				
	3/13(木)				
	3/14(金)				
	第4週目	3/17(月)			
3/18(火)					
3/19(水)					
3/20(木)				祝日	
3/21(金)					
5 3/24(月)					



HPS Japan
Hospital Play Specialist

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿 2-2-1

静岡県立大学短期大学部 HPS Japan 養成教育事業事務局

tel: 054(202)2652 mail: hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp

担当: 松平千佳、江原勝幸、中村仁美